

施策番号	2706		
施策名	水辺環境の整備		
概要	河川の整備等により浸水被害リスクを軽減させ、都市型水害の最小化をめざすとともに、概ね10年に1回起こりうる洪水に備えた治水対策を進める。また、市民に身近な水辺環境の創出をめざす。		
担当局・部室	建設局・土木管理部	共管局・部室	
上位政策	27 暮らしの水		
施策に関する主な分野別計画等	京都市水共生プラン，京都市河川整備方針		

### 施策の評価

#### 1 客観指標評価

指標名	24年度	25年度	26年度評価						
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標のウエイト	
1 平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率(%)	a	a	87.9	88.03	88.06	99.9%	b	1.00	
2 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-	
		a	a	客観指標総合評価				b	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	26年度回答						有効回答者数	評価
	そう思う	どちらかと言うとそう思う	どちらとも言えない	どちらかと言うとそう思わない	そう思わない			
1 京都の河川は水がきれいで、水辺に親しみやすい。	128	243	106	35	16	528	a	
	24.2%	46.0%	20.1%	6.6%	3.0%			
2 大雨が降っても、身近な地域で浸水の被害は起こっていない。	151	145	83	70	82	531	b	
	28.4%	27.3%	15.6%	13.2%	15.4%			
3 -							-	
4 -							-	
5 -							-	
		市民生活実感調査総合評価						a

3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている					25年度	A
	重み付け	<input checked="" type="checkbox"/> 客観指標	b	<input type="checkbox"/> 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 治水対策は、概ね10年に1回の確率で起こりうる洪水に対応することを目標としており、たとえ実際に洪水が起きず、市民が浸水被害の発生を実感しなくとも、行政の責任において遂行すべき取組であるため、客観指標評価を重視する。						24年度	A
(原因分析) 【客観指標】平成16年の記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率については、厳しい財政状況ではあるが、着実に事業を進めているため、a→b評価と安定している。 【市民の実感】●京都の河川の親しみやすさについては、山紫水明といった京都らしい川や水辺に対する市民の方の愛着がうかがえ、b→a評価と改善した。 ●浸水の被害については、局地的集中豪雨の頻発傾向にある中、本市ではこれまでから都市型水害の最小化を目指し、河川の整備を進めているところであり、24年度から河川の緊急総点検を実施するなど、河川浸水対策緊急事業を進めたが、平成25年9月に台風18号による浸水被害が生じたことなどから、a→b評価となったものと思われる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		26年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		25年度 決算額	26年度 予算額		
1	旧安祥寺川改修	379,625	124,572	—	建設局
2	西野山川改修	9,996	10,458	—	建設局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

●局地的集中豪雨等による浸水等の危険性が高まる中、平成24年度から実施している河川浸水対策緊急事業により、浸水を未然に防ぐための予防対策を速やかに講じるとともに、昨年度策定した普通河川整備プログラムに基づく計画的な整備に取り組み、概ね10年に1回程度発生する規模の降雨により起こりうる洪水に備えた治水対策を進める。また、市民に身近な水辺環境の創出をより一層推進する。

施策名	2706	水辺環境の整備									
指標名	平成16年記録的豪雨時の河川浸水被害箇所解消率（％）										
担当課	河川整備課	連絡先	222-3591								
<b>1 指標の説明</b>											
平成16年の記録的豪雨の際に河川からの溢水による浸水被害があった河川の改修実施率											
<b>2 指標の意味</b>			<b>3 算出方法・出典等</b>								
浸水被害の低減に向けた河川の整備状況を示す指標			算出方法：H16浸水被害河川整備延長÷H16浸水被害河川計画延長×100 出典：事業担当課調べ								
<b>4 数値</b>											
	前回数値	最新数値	推移	目標値							
	24年度	25年度		数値	根拠	達成度					
数値	87.9	88.03	0.13ポイント増	88.06	平成16年度浸水被害発生河川における当該年度の目標改修率	99.9%					
	全国順位	中長期目標			備考						
		数値	目標年次	達成度							
数値		88.3	26年度	99.7%							
平成16年度浸水被害発生河川における中長期目標年度の目標改修率											
<b>5 評価基準</b>		<b>6 基準説明</b>		<b>7 評価結果</b>							
最新値をx、(目標値-前回値)をyとしたとき、 a：目標値≤x b：前回値+y*2/3≤x<目標値 c：前回値+y*1/3≤x<前回値+y*2/3 d：前回値<x<前回値+y*1/3 e：x=前回値		目標値を達成することは不可能ではないが、財政状況の寄与度が高いことから、目標値以上の達成をaとし、5段階に基準を設定した。		<table border="1"> <tr> <td>24</td> <td>25</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>a</td> <td>a</td> <td>b</td> </tr> </table>		24	25	26	a	a	b
24	25	26									
a	a	b									